

のら分身の
人か、渾下
一個座羅者き
一視網著書

の理 祭管 術機 芸危

表現の自由を守るマネジメント
A5判 200頁 定価2,500円+税 吉田隆之 著

なぜ世論は 分断されたのか!?
なぜ中止に追い込まれたのか?
なぜ展示を再開できたのか?

7/30
刊行

津田大介をはじめ関係者へのロングインタビューで見てきたものとは?

「あいちトリエンナーレ 2019」の中止事件。電話攻撃(電凸)、脅迫メールで展示が中止され、展示内容の是非とともに二分された世論の沸騰が注目を集めた。

本書は一研究者一個人の視座から、つぶさに展示中止から一部再開に至る経緯をたどり、実行委員会がどう対処したか、行政の検証・検討委員会がなにを判断したか、政治の動き、県・市の見解と対応が極端に別れた経緯、再開にこぎつけた舞台裏、文化庁助成がなぜ取りやめ発表に至りなぜ減額復活したのか? などなど「トリエンナーレ事件」の顛末にまつわる多くの“なぜ”を解明する。行政の文化事業、文化施設関係者にとってリスクマネジメント、ダメージコントロールに必読。



ISBN: 9784880654720

- 序章 あいちトリエンナーレ 2019
- 第1章 あいちトリエンナーレでなにが起きたのか
- 第2章 中止展示にまつわる当時の議論の整理
- 第3章 なぜ「表現の不自由展・その後」の展示中止が、起きたのか。
- 第4章 なぜ展示を再開できたのか。
- 第5章 税金を使い、《平和の少女像》のような政治性・社会性の強い芸術作品を展示することが、美術館・芸術祭等で認められるのか。
- 第6章 文化庁の補助金不交付決定が認められるのか。
- 第7章 「あいちトリエンナーレあり方検証・検討委員会」を検証する
- 第8章 「あいちトリエンナーレ名古屋市あり方・負担金検証委員会」を検証する
- 第9章 芸術祭とアーツカウンシル
- 第10章 芸術祭の危機管理 —表現の自由を守るマネジメントとは?

著者: 吉田 隆之 (よしだ たかゆき) 大阪市立大学大学院都市経営研究科准教授。日本文化政策学会理事、文化経済学会(日本)理事。東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程音楽文化学専攻芸術環境創造分野修了。京都大学法学部卒、京都大学公共政策大学院修了。愛知県職員としてあいちトリエンナーレ 2010 を担当。専門は、文化政策・アートプロジェクト論。主著に『トリエンナーレはなにをめざすのか—都市型芸術祭の意義と展望』、『芸術祭と地域づくり—“祭り”の受容から自発・協働による固有資源化へ』(いずれも水曜社)など。



SUIYOSHA
水曜社

東京都新宿区新宿1-14-12
TEL.03-3351-8768
FAX.03-5362-7279
<http://suiyosha.hondana.jp>



amazon

全国の書店、大学生協、ネット書店などでお買い求め下さい